

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	自らが考え自己表現ができる 当たり前のことを当たり前にできる	・小中連携部会の継続開催。 ・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ・学校事務の共同実施。 ・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。 ・小から中へ継続した道徳授業の実施。 ・部活動での連携 ・中学校ブロック合同授業研を1回開催。 ・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。	・小中連携部会の継続開催。 ・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ・学校事務の共同実施。 ・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。 ・小から中へ継続した道徳授業の実施。 ・部活動での連携 ・中学校ブロック合同授業研を1回開催。 ・各校で実施する校内授業研、参観にお互いに参加し、交流する。 ・外国語の授業内容の交流。	・小中連携部会の継続開催。 ・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。 ・学校事務の共同実施。 ・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。 ・小から中へ継続した道徳授業の実施。 ・部活動での連携 ・中学校ブロック合同授業研を1回開催。 ・各校で実施する校内授業研、参観にお互いに参加し、交流する。 ・外国語の授業内容の交流。
確かな学力の育成	自ら課題を解決する力の育成	・算数における習熟度別、分割、チーム・ティーチングによる一人ひとりを重視する授業形態と、問題解決型学習による子ども主体の授業 ・「わからないことをわからない」と伝えられる環境 ・放課後寺子屋学習教室、夏休み学習会の開設 ・学習サポーターによる支援 ・朝の読書タイム、算数タイム ・東小スタンダードの活用 ・家庭学習週間の設定 ・自主学習の奨励	・前年度の、算数における一人ひとりを重視する授業形態と子ども主体の授業を継承 ・わからないことをそのままにせず、解決していこうとする態度の育成 ・作文指導 ・放課後寺子屋学習教室、夏休み学習会の開設 ・学習サポーターによる支援 ・朝の読書タイム ・東小スタンダードの活用 ・家庭学習週間の設定 ・自主学習の奨励	・前年度までの算数における一人ひとりを重視する授業形態と子ども主体の授業を継承と、他教科への発展 ・わからないことをそのままにせず、解決していこうとする態度の育成 ・作文指導 ・放課後寺子屋学習教室、夏休み学習会の開設 ・学習サポーターによる支援 ・朝の読書タイム ・東小スタンダードの活用 ・家庭学習週間の設定 ・自主学習の奨励
豊かな人間性を育む	命を大切に生き方を認める 多様な	・集団作り全体交流会 ・児童実態交流会 ・職員朝会で児童の交流 ・いじめ防止週間への取組み ・不登校対応研修会 ・人権作品への取り組み ・人権月間に向けての教職員による寸劇 ・道徳研究授業 ・あゆっこ学級理解教育 ・集団作り・支援と道徳・生活指導の2グループに分かれての研究	・集団作り全体交流会 ・児童実態交流会 ・職員朝会で児童の交流 ・いじめ防止週間への取組み ・特性のある子ども理解のための研修会 ・人権作品への取り組み ・特別の教科道徳の充実 ・あゆっこ学級理解教育 ・集団作り・支援と道徳・生活指導の2グループに分かれての研究	・集団作り全体交流会 ・児童実態交流会 ・職員朝会で児童の交流 ・いじめ防止週間への取組み ・東小の人権課題解決にむけた研修会 ・人権作品への取り組み ・特別の教科道徳の深化・充実 ・あゆっこ学級理解教育 ・集団作り・支援と道徳・生活指導の2グループに分かれての研究
健康・体力の増進	運動が好きという生徒の育成	・茨木っ子運動、ペアによる上体起こしと柔軟体操を必ず取り入れる。 ・低・中学年ではフォームロケット等で楽しみながら投げる種目に取り組み、高学年ではソフトボールやフラッグフットボール等の投げる運動を取り入れた授業を行う。 ・東小独自のカリキュラムにそった授業を行う。 ・校内体育部による体力向上を意識した運動の講習会を年2回程度行う。	・茨木っ子運動、ペアによる上体起こしと柔軟体操、ストレッチを必ず取り入れる。 ・握力等の筋力をつける運動 ・東小独自のカリキュラムにそった授業を行う。 ・校内体育部による体力向上を意識した運動の講習会を年2回程度行う。	・茨木っ子運動、ペアによる上体起こしと柔軟体操、ストレッチを必ず取り入れる。 ・握力等の筋力をつける運動 ・東小独自のカリキュラムにそった授業を行う。 ・校内体育部による体力向上を意識した運動の講習会を年2回程度行う。
支 援 教 育 の 充 実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査



(領域ごと)

①話すこと・聞くこと	概ね良好な結果であった
②書くこと	良好な結果であった
③読むこと	概ね良好な結果であった
④言語事項	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問	2二
・もっとも正答率の低かった設問	1四(1)ウ
・もっとも無解答率の高かった設問	3三
・もっとも無解答率の低かった設問	1一

分析

全体的に概ね良好な結果である。書くことの領域では、学習のふりかえりを書くことなどの積み重ねから書くことへの抵抗がなく良くなっていった。読むことの領域では前半は正答率が良く、後半にかけて低い。質問紙から『解答時間が十分でなかった』といった回答も多く、問題を読み取るのに時間がかかり、後半の問題を解く時間が足りなかったと考えられる。問題の要旨を捉える力を付けていく必要がある。言語事項については、知識・理解・表現の正答率が低い。漢字の定着を目的とした取り組みを進めていく必要がある。

〇●算数●〇

(領域ごと)

①数と計算	概ね良好な結果であった
②量と測定	良好な結果であった
③図形	概ね良好な結果であった
④数量関係	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	良好な結果であった

(無解答率)	概ね良好な結果であった
--------	-------------

(その他)

・もっとも正答率の高かった設問	2(1)
・もっとも正答率の低かった設問	3(2)
・もっとも無解答率の高かった設問	3(2)
・もっとも無解答率の低かった設問	1(1)(2)・2

分析

東小学校の6年生の児童の正答率は全国平均を全体的にやや上回り、無解答率が低い。問題形式としては記述式の正答率が低い傾向にあるが、無解答率が全国と比べ高いわけではない。児童質問紙では「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」という項目で積極的肯定意見が多いことから、問題に取り組もうとする姿勢はみられる。記述式では正答の条件が決まっているが、解答の表現方法としての不足があると考えられる。

加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題の正答率は、他の問題に比べて低い。今回の問題では洗顔と歯磨きをする際の水の使用量など日常の具体的な場面から出題されているが、日常生活と式を関連付けることができていない。計算の順序を誤ると式の意味が異なってしまうことに気づき、また計算の順序のきまりを覚えていなくても、日常生活の場面や問題内の資料を読み取ることができれば正答につながると考えられる。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

東小学校の6年生児童は、算数については、正答率が全国平均をほぼ上回っている。国語については、ほぼ全国の正答率に近いが少し下回る。読む力を問われている問題の正答率が全国に比べやや低い。資料等から内容をしっかり読み取りまとめることが苦手とする傾向が見受けられる。また、解答時間が十分でなかったのも要因と考えられる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層 についての分析

昨年度と比べると、無解答率は減少しているが、エンパワー層は増加している。また国語については、解答時間が十分でなかった等の理由から終わりの方の設問ほど無解答率が高い。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

本校では、子どもどうしがつながる場をつくることで、子ども主体の授業づくりを進めている。「問題解決学習」を展開することで見通しを立て、自力解決し、考えを発表し交流することで考えを広め、深めてきた。算数を中心に上記の「問題解決学習」を定着させ、習熟度別授業、放課後寺子屋学習など少人数での学習により、「分かる授業・指導」を重視してきた。その成果もあり、算数への苦手意識の減少や算数の有用性などを肯定的に受け止めるようになってきた。また、問題の解き方への説明などの記述問題への力も確実に付いてきている。

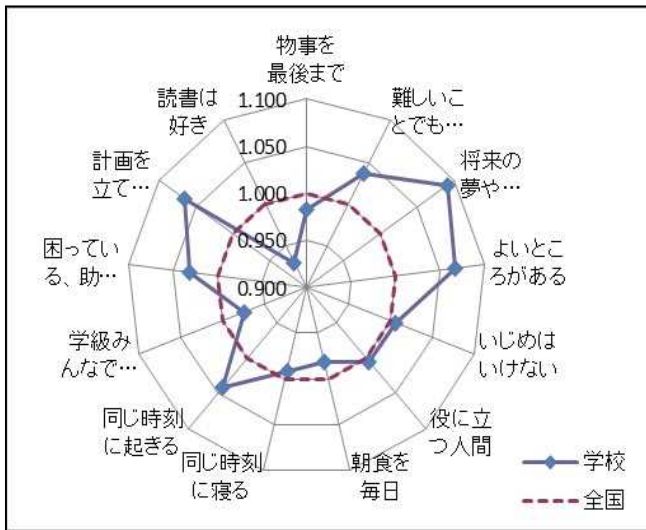
昨年度より、子どもたちの「読む力」を養うために「読み取る力を育てる～物語教材を通して～」と国語の研究に取り組んでいる。6年生については、初めての文章を読み取る力が弱く、読み取る力に個人差があるのでペア学習で交流を深めている。自分の考えや内容をまとめることを苦手としている児童もいるため、お題を80～100字に要約する短文づくりにも取り組んでいる。また、国語科に限らず授業の中で、ペア学習、グループ学習を活動に入れ、自分の考えを「相手に伝える力」つまりコミュニケーション能力を身に着けることへの手立てを積極的に行ってきた。その成果もあり、グループ学習など少人数の場では、理由をつけて自分の考えを述べることができるようになった。

本校では、個に応じた指導をすべく、算数での学習支援サポーターの活用や放課後寺子屋教室で個別の指導にも力を入れ、基礎学力の底上げ、苦手意識の軽減を目指している。『家庭学習週間』を設定し、宿題のチェックや自主学習の習慣化をめあてに家庭と学校で連携を諮っている。年度初めに「学習の手引き」を低中高学年で配布し自主学習の用例（漢字練習や計算の反復練習、意味調べ、興味・関心あるテーマを設定し、図書やインターネット使った調べ学習など）を提示することで、学年に応じ宿題から自主学習へスムーズに移行させながら取り組めるようにしている。

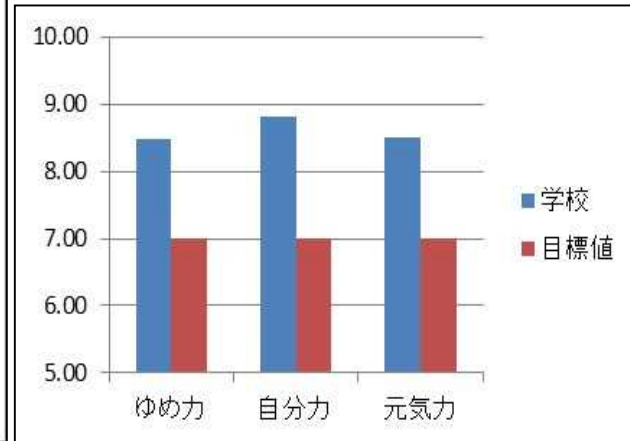
パソコンやスマートフォンの普及から、家庭での自由時間を「インターネットの閲覧」や「ゲーム」などに費やす傾向がある。本に興味をもつことが苦手な子もいるが、地域のキッズサポーター（読書タイムでの読み聞かせ）の協力を得ながら、毎週読書タイムを行ってきており、読み聞かせ等読書タイムを楽しみにしている子も多い。インターネットからの情報収集が広まり、新聞を読まない、読書を進んでしないなどの傾向がみられるが、読書週間には、「〇〇先生の読み聞かせ」や図書委員会によるスタンプラリーなど全校児童に読書への興味関心を高めるような働きかけや、各学年で意欲的に読書に取り組んでいけるような取り組みを進めている。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

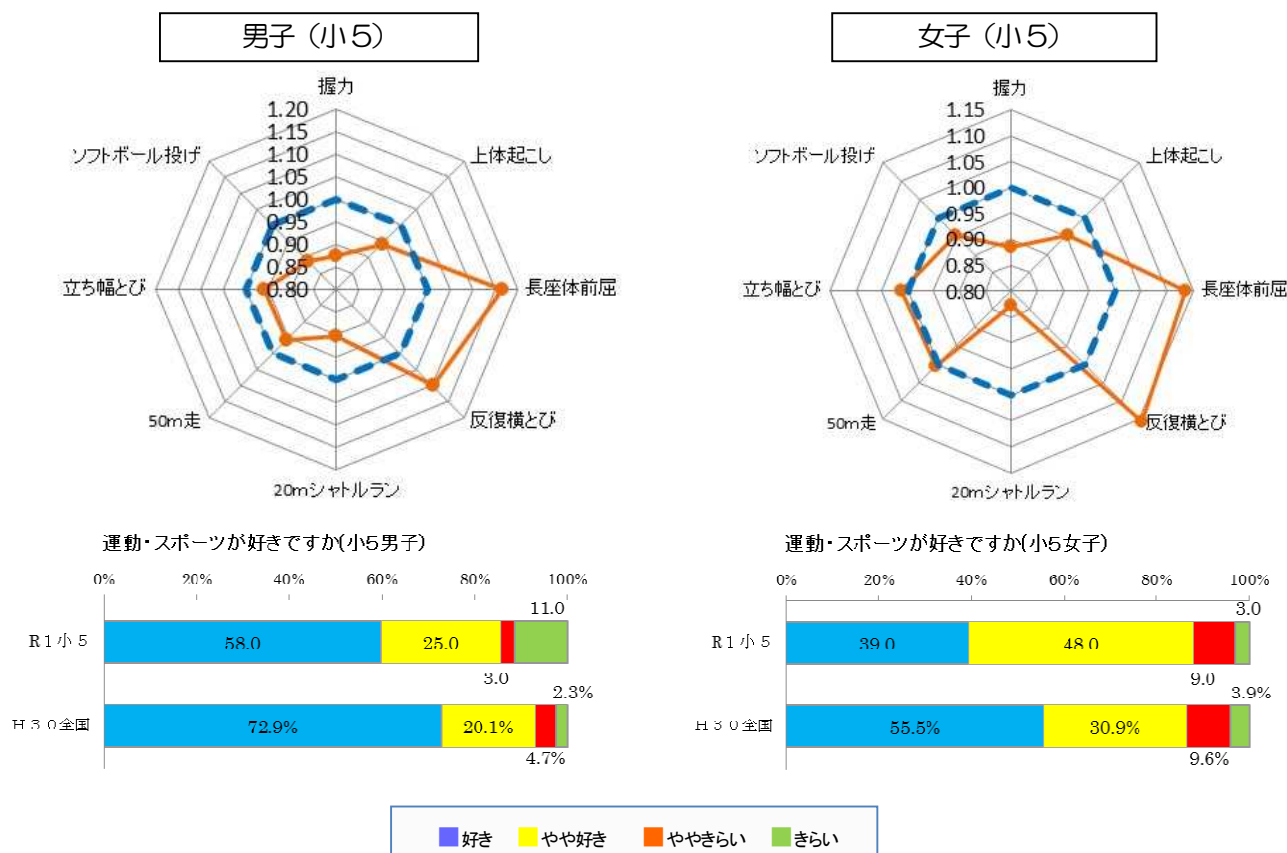
- 起床、朝食の摂取、就寝時間などの生活リズムは概ね平均である。ただ、少数ではあるが朝食を採らない児童や生活リズムの崩れのある児童がいる。
- 「自分にはよいところがある」などの自己肯定に関わる項目は、約9割が肯定的に回答している。また、将来や目標についても前向きにとらえている児童が多い。
- 学校では、読書タイムで本を読んだり読み聞かせを聞いたりする機会があるが、学校の授業時間以外での読書習慣が少ない児童がいる。
- 地域への関心は高く、地域行事への参加は7割近くにのぼり地域や社会のために意欲的に関わろうという姿勢が見られる。
- 学級会などの話し合い活動では、互いの意見を交流して問題解決し、自分の立場を考えるとという点で、自分たちのことを主体的に考えようとする意欲が低い。しかし、学級活動における学級での話し合いを活かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるという項目では、肯定的な意見が多い。
- 国語の問題は最後まで解答を書こうと努力している児童は全国同様であり、算数は平均より高い。生活の中で活用しようとしている児童が多くみられる。また、勉強は大切で、将来社会に出たときに役に立つと思う児童が多い。

取組み

- 読書については読書タイムや読書週間を行ってきているので、図書室や図書館の活用など本を読む習慣づけを今後も行っていく必要がある。
- ICTの活用に意欲的な児童が多い。地域や社会との関わりやICTなど関心の高いものについては今まで通り行っていく。学級会などの話し合い活動では互いに交流する機会を多く設け、よりよい問題解決をし、一人一人が責任をもって生活していけるようにする。
- 問題の解き方やノートを工夫し、自力解決の時間を取っている。算数への興味や関心は平均より高いが、国語は苦手意識のある児童がみられる。昨年度から引き続き読み取りを中心とした取り組みをすすめていく。
- 家庭学習週間の取り組みを含め、放課後の時間を有効的に活用できるよう考えてさせていく。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○



分析

本校の5年生の結果を分析すると、男女ともに長座体前屈・反復横跳びにおいて全国平均を上回っている。特に長座体前屈では全国平均を大きく上回っており、これは柔軟性を高めるために体育科の授業で準備運動をしっかりと行う取り組みを進めてきた成果である。また、柔軟性とともここ数年課題として取り組んでいるソフトボール投げの数値も改善されてきている。

一方、男女ともに、握力・20m シャトルランは全国平均を大きく下回る結果となっている。20m シャトルランはここ数年全国平均を大きく上回っていたことから、学校全体ではなく対象学年の課題であると考えられる。一方握力についてはどの学年でも全国平均を下回っており、学校全体の課題として取り組んでいく必要がある。長座体前屈・ソフトボール投げが数年来全国平均を下回っていたことを受けて、柔軟性を高める準備運動と投げる運動について取り組みを進めてきた。両種目とも取り組んできた成果が出ているので、今後は握力について重点的に取り組み、学校全体の力としてつけていく。

取組み

現在、継続して取り組んでいる茨木っ子運動Ⅱは今後も全学年で統一してやり続けていく。

また、ラダーやミニハードルを使ったウォーミングアップも校内研修を行うことで多くの担任が取り入れており、今後も全担任が実施できるように環境整備も行っていく。

今後の取り組みとしては、新体力テストの結果を踏まえ以下の取り組み（昨年度から継続するもの、新たなもの）を昨年に引き続き進めていくこととする。

- ①準備運動（茨木っ子運動→握力向上メニュー）を取り入れる。
- ②ラダーやミニハードル、遊具を使つてのサーキットメニュー（握力向上）等を授業初めに行う。
- ③低～高学年までの系統立てたカリキュラムを作成し、それにそつた授業を行う。
- ④校内体育部による体力向上を意識した運動の講習会（公開授業を含む）を年に2回程度行う。
- ⑤体力テストのポイントと測定の仕方の校内研修会を行う。